1

［報告｜report］

オーストラリア・アーキビスト協会2016年大会に参加して

A Participation Report about the 2016 Conference of the Australian Society of Archivist

阿久津美紀＋大木悠佑｜Miki Akutsu and Yusuke Ohki

1 —— はじめに

2016年10月17日～21日、New South Wales州Parramattaにおいて、オーストラリア・アーキビスト協会の第31回大会が開催され、大会テーマ「Forging links: people, systems, archives」に即した17のセッション（3つの基調講演を含む）が設けられた。執筆者らはそれぞれの研究関心に応じて大会に参加したが、シリーズ・システム、レコード・コンティニュアム、レコードキーピングなど常にアーカイブズの世界に新たな概念、取組みを発信し続けているオーストラリアのアーカイブズに触れようとしていることは共通している。

本稿では、紙幅の関係上、執筆者の研究関心に近いセッションを紹介する。なおプログラムは表1のとおりであり、執筆者らは色のついたセッションに参加した。



表1 —— 大会プログラム

1日目 10月19日

Session 1: KEYNOTE - COLLABORATION

Mark Matienzo (Stanford University Libraries) / Associate Professor Tim Sherratt (University of Canberra)

Session 2: ACCESS AND ARCHIVES	Session 3: VOLUNTEERS IN ARCHIVES	Session 4: COLLECTING ARCHIVES
Ann Hardy and Gionni Di Gravio: Talking Rings of contemporary archives, speaking history and social sound platforms	Janette Pelosi: State Records NSW Volunteer Program	Lars Rutz and Michael Carney: We accepted it and they are coming: Managing acquisitions of Heritage Collections Project Management in the State Library of NSW: A Practical Approach
Mark Beasley and Ben Carmichael: "Wow, how cool is this?" Innovative technology giving visitors access to digitised collections in the new Geelong Library & Heritage Centre	Anthea Skinner: Building the Researchers of the Future: Internships at the Music Archive of Monash University (MAMU)	Sean JD McMahon: Donor Collections Navigating donor/archive relationship
Chris Hurley: Access to Archives (& Other Records) in the Digital Age	Annelie de Villiers, Nicola Laurent and Chris Stueven: An Unexamined Link: Volunteers in Australian Archives and Records Management	Alan Young, Justin Crook, Phoebe Ellis and Kelly Gilchrist: The Design History Research Archive

Session 5: DESCRIPTION & INNOVATION	Session 6: COMMUNITY ENGAGEMENT	Session 7: DISCUSSION SPACE 1
Ross Spencer: Binary Trees? Automatically identifying the links between born-digital records	Liz Gilroy: Expert Nation: Universities, War and 1920s & 30s Australia	Lisa Summers Barbara Reed Warwick Hunter Greg Rolen Pete Jane Blessing Gene Melzack Anna Blackman Jessica Coates
Nicola Lauren: Broken links, broken trust: why 404 errors have the power to traumatise	Elise Edmonds and Ann Peck: Literary giants: revealing the Angus & Robertson collection	
Asa Letourneau, Charlie Farrugia and Conal Tuohy: PROVisualizer :a tool for giving researchers a high level view of the scope of the collections	Shannon Lovelady: Gallipoli Dead from Western Australia: Naming The Lost	

Ancestry and the Archives Community Jared Akenhead

Session 8: LORIS WILLIAMS MEMORIAL LECTURE - Beyond Access: 20 years since the ASA Policy on Aboriginal and Torres Strait Islander Records

Dr Tiffany McComsey (Kinchela Boy's Home CEO) / Dr Shannon Faulkhead (Monash University)
Narissa Timbery (2015 Loris Williams Scholarship holder, PhD student) / Lyndon Ormond-Parker (University of Melbourne)
Moderator: Kirsten Thorpe and Nathan Sentance

2日目 10月20日

Session 9: KEYNOTE Perspectives on records and archives: an update from the Royal Commission

Justice Jennifer Coate (Royal Commission into Institutional Responses to Child Sexual Abuse)

Session 10: TOWARDS A NATIONAL SUMMIT - Setting the Records Straight for the Rights of the Child

Barbara Reed, Sue McKemmish, Frank Golding and Bonney Djuric
Moderator: Joanne Evans

Session 11: THE UBIQUITOUS ARCHIVE	Session 12: GOVERNMENT RECORDKEEPING	Session 13: SCIENCE AND ARCHIVES
Mike Jones, Deb Verhoeven and Jane Smith: The Ubiquitous Archive: non-binary perspectives on contemporary humanities practice	Opeta Alefao: There are no substitutes for good friends and a good education	Professor Alan Cooper, Ali Abdullah-Highfold and Francesca Zilio: Reconstructing Australia's Genetic Past
	Anita Rapson: The Recordkeeping Behaviours of New Zealand Government Employees	
	Linda Macfarlane: Is the original record king? A National Archives of Australia digital initiative	

Session 14: DIGITAL COLLECTIONS	Session 15: ARCHIVAL LINKS	Session 16: DISCUSSION SPACE 2
Joanna Fleming, Andrea Byrne, Emma Jolley, Terry Joliffe and Glen Humphries: Current Trends in Digital Collecting: Theory and Practice	Nicole Kearney: Museums have archives? Using digitisation and transcription to reunite archives and collections	Lachlan Glanville Susan Kennedy Katharine Stuart Kylie Moloney Hannah Hibbert Steven Miller Carmen Anderer Michaela Hart
	Valerie Love and Kirsty Cox: Transitioning from TAPUHI – Implementing a new collection management system at the Alexander Turnbull Library	
	Mike Jones: Missing Links: museum archives as evidence, context and content	

Session 17: KEYNOTE - On the Crest of a Wave: Transforming the Archival Future

Dr Laura Millar (Archives Consultant, Canada)

2 —— セッション10「Towards a National Summit, Setting the Records Straight for the Rights of the Child」

セッション10「Towards a National Summit, Setting the Records Straight for the Rights of the Child」は、モデレーターをJoanne Evansが務め、パネルディスカッションの形式をとり、4人（Sue McKemmish, Barbara Reed, Bonney Djuric and Frank Golding）が登壇した。ナショナルサミットは、過去の貧弱なレコードキーピングやアーカイビング・システムによって影響を受けた、家以外でのケアを経験した人々（Stolen Generation、Forgotten Australians、Former Child Migrantsなど）を対象として、オーストラリアにおけるレコードキーピングやアーカイブズのフレームワーク、プロセス、システムを転換していくための10年計画を策定し、実行することを目標としている。そのため、このセッションは、2017年5月に開催予定のナショナルサミットに向けた重要なステップとして位置づけられ、これまでの研究の進捗報告と学会参加者とのディスカッションを中心に進められた。

オーストラリアでは、20世紀に約50万人の子どもが保護システムなどによって養育された。過去数十年にわたる、児童福祉に関する大きな改革にもかかわらず、最近の統計でもこうした保護サービスを受けている子どもは増加傾向にあり、年間4万から5万人の子どもが、いくつかの形式の家以外の施設で生活している。こうしたケア（施設や里親宅など）にいる子どもたちは、政府、民間セクターやコミュニティの組織におけるレコードキーピング・システムを誰よりも必要としている。なぜなら、それは彼らにとって、アイデンティティや記憶の探求を支え、家族のリコネクションを促進し、アカウンタビリティや補償の根拠を提供し、権利を主張し、正義を追及することを支えるという役割を担っているからである。その一つの事例として、登壇者のDjuricから、今回のアーキビスト協会大会の開催地にもなっているParramataにおける、Parramatta Female Factory Precinct Memory Project（PFFP メモリープロジェクト）についての報告がおこなわれた。2012年に始められたこのプロジェクトには、Parramattaという地域特有の歴史的な背景がある。Parramattaでは、the Parramatta Female Factory（1821-1847） やthe Roman Catholic Orphan School（1844-1886）、the Parramatta Girls Industrial School（1886-1974）など時代による移り変わりはあるものの、ケアのための施設が集中してNorth



写真1 —— the Parramatta Female Orphan Schoolの建物。
現在はウェスタン・シドニー大学でギャラリーとして活用されている。

Parramatta Government Heritage地区に点在している。

セッションでは、PFFPメモリープロジェクトのワークショップで行われた「Living Trace」という試みが紹介された。「Living Trace」とは、自らの記録が残っていなかったワークショップの参加者が、建物に彫られた昔の落書きをトレースすることで、自分がその空間に存在したという痕跡を確認するというプロセスである。ケアを経験した彼らにとっては、こうした行為が如何に貴重な経験となるのか、会場で傾聴していた多くの関係者が納得し、記録の持つ意味の重さを痛感したようだった。執筆者は、自らの研究フィールドと関心からこうしたケアの出身者に向けたワークショップなどを目にする機会も多いが、「Living Trace」のようなワークショップはこれまで日本でも例はなく、建物の落書きから自分の存在の生きた痕跡を採取するという方法に強い衝撃を受けた。信頼できるレコードや情報システムは、過去にケアを経験した人々にとって重要であると再認識したセッションであった。

3 —— セッション12：ガバメント・レコードキーピング

セッション12では政府記録のレコードキーピングに関する3つの報告があった。

「There are no substitutes for good friends and a good education」はフィジーにおける国立公文書館の予算、職員の拡大などの館戦略に関する報告である。当初の報告者であるOpeta Alefaio氏は諸事情により来られなかった。国立公文書館では、2012年以降、業務への市民の関与（public engagement）を500％、スタッフを52％、予算を145％拡充してきた。それは、迅速なアクセスを提供す

ることや、SNSによる情報発信を利用することで、国立公文書館としての責務を果たそうとするためであるという。政府予算の獲得や職員の大幅増といった、アーカイブズ機関の多くが直面する困難の解決を後押ししたのは、アーキビストの専門職団体であった。特に同じICAの太平洋地域支部(PARBICA)に属するオーストラリアとは、両国立公文書館が協同してトレーニング・プログラムを実践しているという。

Anita Rapson「The Recordkeeping Behaviours of New Zealand Government Employees」は、ニュージーランド政府職員の記録作成に関係する影響を調査した報告である。現在Anita氏はヴィクトリア大学ウェリントン校において、記録作成時のレコードキーピングに影響を与える要因の調査をもとにした博士論文を執筆しており、本報告はその一部である。記録作成に与える影響は、業務を遂行する環境など個別の要因が大きい。そこでAnita氏は、観察、インタビュー、参加の3つの調査手法を用い、2段階のデータ収集の進め方をとっている。第一段階として、社会学的な調査手法を用い、インタビューと参加型の観察を通して、複数のケーススタディから調査を行い、第二段階として、特定の集団にフォーカスし、個々のレコードキーピングの行為を調査するとしている。現在は詳細な分析をしている最中であるが、会場からは多くの質問、コメントがあり、記録とアーカイブズの統一的な管理を目指すレコードキーピングを打ち出すオーストラリアにおいても、関心を引くテーマであったことが窺われる。

我々アーキビストは、残すべき情報が記録として作成されない限り、アーカイブズとして保存していく事は不可能である。そうしたことから、Anita氏の記録作成時の要因に着目した研究は注目すべきものであり、博士論文をぜひ読みたいと思わせるものであった。また、日本のアーカイブズ学研究においても、こうした視点を含めた研究の必要性を感じさせるものであった。

Linda Macfarlane「Is the original record king? A National Archives of Australia digital initiative」は、オーストラリア国立公文書館(National Archives of Australia 以下、NAA)所蔵のアーカイブズ資料のデジタル化に関する報告である。報告者であるLinda氏はNAAのInformation Policy and Systems部門のStrategic Initiatives and PolicyのDirectorを務めており、オーストラリア連邦政府が進めている政府情報のデジタル化方針であるDigital Continuity 2020 Policy[1]の担当者である。Digital Continuity 2020 Policyは、2011年に公表されたDigital Transition Policy[2]の成果を基にして方針が策定されており、オーストラリア連邦政府のデジタル化イニシアチブと電子政府の推進をサポートする主要な役割を果たすものである。この方針はアカウンタビリティに焦点を当てた3つの原則から構成され、その原則2「情報はデジタルとして管理される」で求められるアクション7「アナログ・フォーマットの情報は、業務上の価値が存在する場合、デジタル・フォーマットに移行する(目標期日:2020年12月31日)」はアーカイブズ資料にも適用される。そのためNAAでは所蔵資料のデジタル化を推進するとともに、デジタル化後のオリジナルは廃棄等の措置を取るとしている。

法律上オリジナル・レコードの保持が求められるもの、あるいは図面などの物理的な特徴を有するものなど例外はあるとしても、現在のところNAAが保有するアーカイブズ資料の内90kmが対象であり、デジタル・レコードに求められる要求事項を満たすもの、シリーズ単位、コンテクスト情報が全て記述されているものなどの基準をクリアしたものから、デジタル化を進めていくという。またデジタル化後の資料の手続きとして、第三者機関での保管や寄贈、廃棄処分、作成機関への返還などが想定されている。最後に報告者から、果たしてオリジナル・レコードはキングなのだろうか(=絶対的なものなのか)、もしかしたらデジタル化時代においてはクイーンではないだろうか、という投げかけがあった。会場からはデジタル化の判断基準はどのようなものかという質問があり、報告者からはチェックリストを作成して、それで判断するといった回答があった。

こうしたデジタル化時代であったとしても、デジタル化後のアーカイブズ資料を廃棄することは、真正性の問題や保存の観点から疑念を抱かざるを得ないが、その一方でこうした議論ができる環境が整備されていることは羨ましく感じられた。現代の業務環境の中でデジタル記録は避けて通れない問題である。その中でNAAは、作成された記録が流れてくるまで待つのではなく、より積極的にデジタル環境における記録(情報)をどのように管理していくかという役割を担っており、そのためにシステムや制度設計に関わっているのである。翻って日本のアーカイブズ界の中で、アーカイブズ資料だけでなく、記録をどのように作成すべきか、どのような条件が求められるか、システムをどう設計するか、そして記録管理体制をどう構築するかといった、記録の世界全体にわたる議論がされているだろうかと感じられた。



写真2 ——Anita Rapson氏の報告の様子

4 —— 終わりに

上記で紹介したセッション以外もとても興味深いものが多かった。個別の報告に触れることはできないが、全体を通して、デジタル化の進展する業務環境やケア・リーバーなど、オーストラリア社会が現在直面している問題を、アーカイブズでしかできない視点でもって提言していることが印象に残った。日本では時の経過した文書を扱うことが多いため、過去のことに終始しがちなアーカイブズではあるが、ここでは現代社会というコンテクストの中で、アーカイブズがどのように社会とコンタクトがとれるか、つまり単純にアーカイブズ資料から過去を明らかにするだけではなく、アーカイブズとしてどのような情報を残していくか、そのためには何をしていくべきなのかという視点がはっきりと見て取れた。レコードキーピングという枠組みの中で、プロアクティブな役割を果たすアーキビストとはこういうものだと認識させられた。彼我の差を痛感させられるとともに、このような学会に参加できたことは良い経験であった。

1 —— National Archives of Australia, Digital Continuity 2020 Policy, <http://www.naa.gov.au/records-management/digital-transition-and-digital-continuity/digital-continuity-2020/index.aspx>（最終アクセス日：2016年11月4日）。

2 —— 2011年7月に内閣府によって作成、公表され、NAAがその中心的役割を果たしていた、政府記録の電子化と効率的な記録管理を目指した方針。2012年4月には、2016年以降に電子的に作成され、NAAに移管されるべき記録は、デジタル・フォーマットのみであることが追加承認された。<http://www.naa.gov.au/records-management/digital-transition-and-digital-continuity/digital-transition-policy/index.aspx>（最終アクセス日：2016年11月4日）。